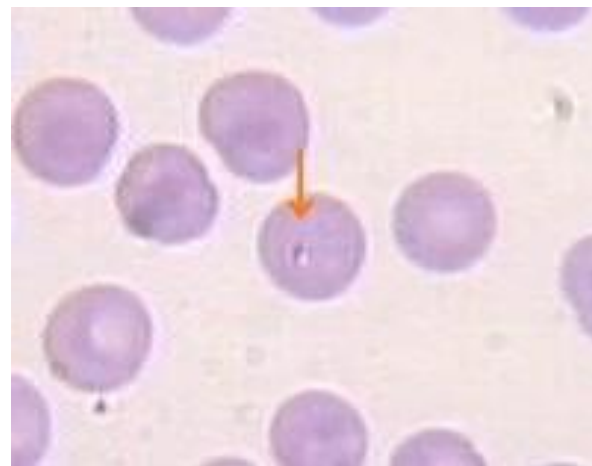
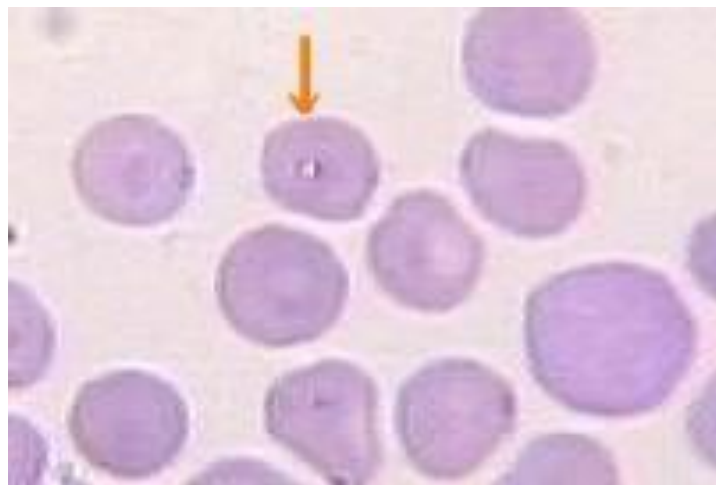


Babesia gibsoniの経胎盤感染 が疑われた症例について

関内どうぶつクリニック 牛草貴博
麻布大学伝染病学教室 須永藤子

Babesia Gibsoniの基本知識

マダニによって媒介されるバベシアという原虫によって引き起こされる溶血性の疾病です。犬に寄生するバベシアはバベシア・ギブソニ(*Babesia gibsoni*)とバベシア・カニス(*Babesia canis*)の2種類です。バベシアはマダニ(フタゲチマダニ、ツリガネチマダニ、ヤマトマダニおよびクイロコイタマダニ)が媒介します。一般に犬バベシア症は関西以西の病気だと考えられていますが、感染地域の広がり、犬バベシア症に感染した犬の移動に伴い全国で発生が認められるようになってきました。ダニのいそうな山や公園、草むらなどで遊んだ後は、特に念入りに体をチェックしてダニが吸血し始める前に取り除きましょう。バベシア原虫がダニから犬に移るのに36～48時間必要と言われているので、吸血前にダニを取り除けば感染の可能性を非常に低く出来ます。



Material and Method

検査対象犬

3歳のメスのピットブル 米国での闘犬歴あり。
この犬が出産した子犬6頭(♀3、♂3)

検査方法

来院時の血液検査(RBC、PCV、PLT)、ギムザ染色による原虫の確認、PCRによる原虫抗原の測定、抗体検査は間接蛍光抗体法で測定。

対象犬(母犬)



対象犬(子犬)



対象犬(ブルコ)



RESULT(臨床症状)

- 生後8日(第1病日)に全身が黄色くなったという主訴で来院。
- 来院時のPCVは14.9% PLTは41000/ μ Lであった。塗抹検査にて赤血球内にバベシア虫体を検出。
- 輸血、クリンダマイシンを中心とした治療を行った。

RESULT(臨床症状)

- 第3病日にはPCVが9%まで低下
- 第8病日までにはPCV24%PLT380000/ μ Lまで回復。
- その後PCVは22%から30%、PLTは50000/ μ Lを保ちながら体重も増加。
- 21病日に他の同腹仔に顕著な貧血が確認され貧血が確認された。
- 他の4頭は一般状態、PCVともに正常範囲内であった。

RESULT(原虫検査)

- 臨床症状を呈した子犬は生後8日目、29日目、さらに100日目の検査でも塗抹に原虫の感染が確認された。
- ほかの4頭の子犬と母犬からは血液塗抹標本では原虫は確認できなかった。
- 生後29日目に行ったPCRによる抗原検査では臨床症状を示した2頭の子犬と母犬が陽性でほかの4頭の子犬は陰性であった。

RESULT(原虫検査)

	The bitch	No. of a litter of pups					
		1	2	3	4	5	6
Sex	♀	♀	♀	♂	♂	♀	♂
Hematologic findings							
PCV (%)	28.8	26.7	<9	24.4	27	24	27
Platelets (104/μl)	13.6	4.1	<2.0	42.5	35	35.9	39.8
Organism finding							
<i>B.gibsoni</i> PCR*	+	+	+	-	-	-	-
Microscopy**	-	+	+	-	-	-	-

*:Polymerase chain reaction;-=no *B.gibsoni* DNA; +=*B.gisoni* DNA detected

**:-=No *B.gibsoni* infected RBC observed; +=*B.gibsoni* infected RBC observed

RESULT(抗バベシア抗体)

Table 2. Anti-*B.gibsoni* antibody in a litter of pups and the bitch infected with *B. gibsoni* by IFAT

age(day)	The bitch	No.of a litter of pups					
		1	2	3	4	5	6
68	81,920	1,280	2,560	40	40	40	80
83	—	1,280	2,560	—	—	—	—
100	—	20,480	40,960	—	—	—	—
395	40,960	40,960	20,480	—	—	—	—

IFAT:Indirect fluorescent antibody test

—: Non examination

DISCUSSION

- 子犬6頭のうち1頭は生後8日目に、もう1頭は29日目に著明な溶血性貧血が認められ原虫が確認されたことから完成経路は胎盤感染である。
- 胎盤感染は同腹仔すべてに感染するとされてきたが同腹仔の一部しか感染しないことがあること、感染した同腹仔でも発症時期に差があることが明らかとなった。

DISCUSSION

- クリンダマイシンによる治療によって良好な結果が得られ副作用も乳歯の黄変化以外には大きなものは見られなかったことから新生仔の急性期治療に対しても安全に用いることができ効果的であることを明らかにした。